

# 名家連ニュース

令和6年2月12日(月)  
発行：特定非営利活動法人  
名古屋市精神障害者家族会連合会  
会長 池山 豊子  
TEL/FAX(052)846-5576 NO.982号

## ◆◆ 精神疾患の基礎知識講座「家族に届ける」第3回 ◆◆

精神疾患の基礎知識講座の第3回が、2月4日(日)10時から12時、名古屋市総合福祉会館7階研修室で開催され、36名が参加しました。福岡県にある(一般社団法人)「ひとぷら」という訪問看護ステーションで活動されている津田祥子さんがリモートで講演をされました。長江美代子さん(一般社団法人日本フォレンジックヒューマンケアセンター副会長)がファシリテーターとして全体の進行役を務められました。

今回のテーマは「治療や支援につながらない家族へのアプローチ」という大変難しい問題です。(津田さんは3つの事例を通してお話をされましたが、事例の内容は割愛させていただきます。)

### つながりづらいかた：

未治療、医療中断など医療面に困難を抱えるかた。状態としてひきこもっている、社会的に孤立しているかた。既存のサービスを利用しづらく、利用することはできても継続しづらいかた。が支援者となつながらる機会をもてず、家族も困っている。



### つながりづらいかたと関係を築くには：

つながりはじめは、家族や関係機関からの相談が多い(本人は困っていない)。家族が本人と関われる状況だと比較的スムーズに関係づくりが進むが、家族関係が困難な状況だとコンタクトからかなり難しい。だから家族支援が絶対不可欠である。まずは本人と家族のコミュニケーションを改善する。そのためにはコツがあり、リフレーミングという技術もその一つである。本人の周りの状況はとて千差万別なので、支援者も一緒に考えていく必要がある。関係づくりにはかなりの慎重さと根気強さを要求される。

### ポジティブな関わりとは：

本人のニーズを知ることからはじまる。本人の「思い」に付き合うことが重要である。本人が嬉しい事、楽しい事をわかってあげて、夢と希望を一緒に具体化する。ポジティブに変化したとしても年単位が当たり前である。結局は、本人、家族、支援者の協働作業である。本人にとって、家族や支援者が役に立つ人であることをわかってもらうことが必要である。決して病識を持ってもらうとか病気を治すということが目的ではない。

質疑応答では、このような訪問看護ステーションは名古屋にはないのか。法人としてやっているのか等という制度に関する質問が多数ありました。これらについては3月30日に開催する第5回でお話があるそうです。

この問題は研修では学べないスキルが必要である。現場で本人、家族と話し合う中で糸口に気づくことがある。と言われて気づいたことがありました。私達は専門家に解決法を教えてもらいたいと考えすぎてはいないか。必ず解決策があるはずだと信じて、あきらめずに本人の為にできることはないかと考え続ける努力が足りなかったのではないかと。と思いました。(文責 実行委員、広瀬)